

全国に先駆け物語鑑賞

来場者と映画のヒットを祈願する左から滝藤さん、戸田さん、及川さん、大谷さん、磯谷さん、錦織監督。4日、鳥取県倉吉市のエースパルク未来中心



「孤独のグルメ」「神々の山嶺」谷口ジロー珠玉の名作が初の日本実写化

映画 遥かな町へ

2026 10/9 全国ロードショー

俳優陣とヒット祈願

映画 遥かな町へ
倉吉ノスタルジー

完成試写会に倉吉市民3千人

鳥取県倉吉市が舞台の映画『遥かな町へ』（9日全国公開）の完成披露試写会が4日、同市のエースパルク未来中心大ホールで開かれ、公開を待ちわびた市民ら約3千人が、昭和30年代にタイムスリップした中年男性が人生を見つめ直す物語を鑑賞した。大谷亮平さん（46）ら俳優陣も駆け付け、ヒットを祈願した。

（井田慎一）

試写会は午後1時と同5時の2部制で、いずれも1500席のチケットが完売。ステージに設置された特大スクリーンで鑑賞した。今年、市内にUターン就職した公務員、石田瑛歩さん（24）は「倉吉がきれいな映像で表現されていた。地元に戻って良かったと思わせてもらった」と感動した様子で話した。

一部終了後には、大谷さんや戸田菜穂さん（52）、滝藤賢一さん（49）、及川桃利さん（15）、磯谷萌々子さん（15）5人の主要キャストとメガホンを取った錦織良成監督（64）が登場。3階席まで埋まった場内に圧倒され

た大谷さんは「公開前に倉吉へ来られて本当にうれい」と感激した様子であり、及川さんは「皆さんの反応で、期待に応えられたと思えた」と安堵すると、大きな拍手が沸き起こった。

キャスト陣は撮影の裏話や作中小道具として使われた昭和38年「平成10年」の日本海新聞などが当たる抽選会などで市民と交流。イベントの合間に取材に応じた錦織監督は「大ヒットしたらお礼に来る。鳥取県民の力で映画館を満杯にしたい」と鑑賞を呼びかけた。

漫画原画やロケ写真並ぶ

美展
県企展



漫画『遥かな町へ』の原画を鑑賞する家族連れ。4日、鳥取県倉吉市の県立美術館

鳥取県倉吉市が舞台の映画『遥かな町へ』の全国公開を前に、県立美術館（同市）で4日、原作漫画と映画の無料企画展が始まった。貴重な原画や撮影風景を写した写真などが並び、来場者が古き良き昭和の倉吉の雰囲気を感じている。

9日の封切りを前に映画を盛り上げようと、県が企画。メガホンを取った錦織良成監督（64）や主演の大谷亮平さん（46）ら主要キャストが駆け付け、テープカットで開幕を祝った。会場内には漫画の複製原画30点のほか、昨夏に同市内を中心に行われたロケの様子を収めた写真パネル28点などを展示。米子市西三柳の会社員、柏平紗希さん（40）は「撮影の裏側や世界観を知ることができた。映画を見てみたい」と、精緻な筆致で表現された倉吉のまち並みに魅了された。同展は20日～11月11日、倉吉市明治町の打吹回廊でも開かれる。（井田慎一）